

第5章 第I部のまとめ

本調査対象歩行空間は、道路交通騒音のため極めてうるさい環境であるが、住民にとって重要な生活上の動線である。従って、植樹帯を含めた歩行空間の環境整備により、歩行空間ばかりでなく、地域環境に対するイメージは向上し、ゆとりの空間に対する満足感も増してくることが期待される。現在のところ植樹帯はJR磯子駅から森東小学校運動場及び森町ビルまでの500mであるが、更に延長されてくると全長750mにわたるアラカシ植樹帯ができ上がり、一つの景観を形成することになる。こうなると、周辺住民にとって歩行空間は地域のシンボルとなり、そこを歩くこと自体が歩行目的ともなり得るし、他地域住民を誘導することも可能である。しかし、期待とか可能性などでことを論ずるのみでなく、実際の場面での基本的研究的調査をもとに検証し、更に問題点を明らかにしていくことが事業の継続にとって必要である。今回の調査は、その一つのケーススタディーである。以下に総括として、植樹帯の効果と問題点について述べ、当該歩行空間における植樹帯及びその周辺環境に対する具体的提案を試みる。

調査対象歩行空間には既存緑化部分と緑化事業部分及び緑化未整備部分が含まれ、調査は緑化事業部分が緑化される前後と1年後の3回、地域住民と歩行者を対象に行われている。

歩行空間に対する意識の面から見ると、植樹帯が設置されたことによって、地域住民も歩行者も緑が増えたことを認めている。また、植樹帯の設置により歩道幅員は減少しているにも関わらず、歩行空間に対する圧迫感が増していない。これは、植樹帯が圧迫感を与えるものでないことを示すと共に、樹高の高い植樹帯と低い植樹帯の並列植栽が歩行空間を広く見せていると考えられる。一方、地域住民と歩行者で異なる意識も見られる。地域住民においては、植樹帯が設置されたことによって、歩行空間の喧騒感が緩和され、既に植樹帯が設置されている歩行空間へもその意識が及んでいる。また、歩行の安全性に対する意識も向上している。しかし、歩行者においては、喧騒感緩和効果が認められないばかりか、歩行の安全性に

対する意識は悪くなっている。喧騒感については、この地域の日中の道路交通騒音が L_{eq} で75dBA以上と極めて高く、実際そこを歩行している人には、それが強く影響していると考えられる。歩行の安全性に関しては、ガードレールのみか密な植樹帯が設置されている歩道に対して、歩行者の安全性の評価が高い。このことから、密でない植樹帯の場合、車の走行が垣間見え、車が歩道に飛び込んでくるのではないかという不安が生じると考えられる。従って、歩行者の安全性に対する意識を考えた場合、車の走行を見えなくする程度にまで植栽密度を高めることが必要である。

歩行頻度の面から見ると、植樹帯が設置されたことによって、その歩道を利用する頻度の高い歩行者が増している。また、その人達は散歩もよくする。つまり、歩行に対する要求の高い人は緑化された歩道を選択して歩行しており、歩道に植樹帯を設置することはそのような人々の歩行行動を契機として一般の歩行者をも誘導する可能性を持っている。

歩行行動の面から見ると、歩車道境界部分は歩行空間として利用されていない。従って、その部分に植樹帯を設置することは、歩行空間を狭くするものではなく、むしろ有効利用につながる。

以上の植樹帯による効果を踏まえ、地域住民と歩行者の歩行空間に対する問題点の指摘及び植樹帯に対する感想から、具体的に各歩行空間に対する提言を以下に記す。

森町ビル前は単なる歩行空間ではなく、バス停の機能を持ち、人の目に触れる機会も多い。そのため、マツザカヤ前や小学校運動場前の植樹帯に比べ評価が厳しい。従って、森町ビルの駐車場となっている建物側や歩道の舗装等の整備を総合的に行うことによって、植樹帯との調和を計る必要がある。

小学校運動場前の歩行空間は、植樹帯が設置されたことによって、その植樹帯が評価され、歩行空間に対する意識水準が高まっている。しかし、それに伴い歩行空間の問題点の指摘も増しており、特に安全性の悪化が認められる。この問題を解決するためには、前述したように、植栽密度を高くして車の走行を見えなくする必要がある。

マツザカヤ前の植樹帯は、居住者調査，歩行者調査，実験室実験の結果から、総合的に最も高い評価を得ている。しかし、歩道上や植樹帯の中のゴミが目立ち、ブロック舗装で施工も悪いため、きたないという感想も多い。従って、歩行空間の清掃と歩道の舗装を改良することによって、歩行空間の環境を改善していくことが必要である。また、植樹帯の高さが1.7mであるため、車道への見通しの悪さを訴える人もあり、この地域での植樹帯の高さは1.5m程度が適当である。

既存緑化道路や緑化事業道路の歩行空間に比べ、緑化未整備道路のそれに対する評価は低い。特に、植樹帯が全くない磯子車庫前の歩行空間に対する評価は最も低い。これは緑化未整備道路に植樹帯があってもその評価が低いためであり、緑が少ないとか手入れが足りないという意見が多い。緑化未整備道路も、既存緑化道路や緑化事業道路の植樹帯のように、樹高の高い植樹帯を設置し、十分な管理をしていくことが必要である。

歩行空間に対する問題点の指摘と植樹帯に対する感想の中で、植樹帯の中にゴミがたまってきたないという意見が出ている。これは、管理上の問題ばかりでなく、植樹マスが歩道と同じレベルにあるため、そこにゴミが吹きだまることが考えられる。植樹マスをレンガなどで1段高くすることによって、それを解消すると共に、植樹帯を明確に印象付けることができるであろう。

花が咲いているとよいという意見も多く見られる。今回の調査では、アラシ植樹帯に景観上の効果が見られていないことを考えると、植樹帯の中に花木を点在させれば、美しいとか好ましいという意識を顕在化させることができ、人々に親しまれる歩行空間が形成できよう。

参考文献

- 1) 田村明弘，石崎伸次：緑の心理的減音効果について（その1），日本建築学会講演梗概集，97-98（1983.9）。
- 2) 田村明弘，鈴木弘之：緑の心理的減音効果について（その2），日本建築学会関東支部研究報告集，113-116（1984）。
- 3) 田村明弘，鈴木弘之：緑の心理的減音効果について（その3），日本建築学会講演梗概集，389-390（1984.10）。
- 4) 田村明弘，鈴木弘之，大池秀明：緑の心理的減音効果について（その4），日本建築学会関東支部研究報告集，41-44（1985）。
- 5) 田村明弘，鈴木弘之，大池秀明：緑の心理的減音効果について（その5），日本建築学会講演梗概集，107-108（1985.10）。
- 6) 田村明弘，鈴木弘之：緑の心理的減音効果について（その6），日本建築学会関東支部研究報告集，1-4（1986）。
- 7) 鈴木弘之，田村明弘：緑の心理的減音効果について（その7），日本建築学会講演梗概集，661-662（1986.8）。
- 8) 田村明弘，鈴木弘之，大塚弘之：緑の心理的減音効果について（その8），日本建築学会関東支部研究報告集，13-16（1987）。
- 9) 鈴木弘之，田村明弘，大塚弘之：緑の心理的減音効果について（その9），日本建築学会講演梗概集，381-382（1987.10）。
- 10) 田村明弘，鹿島教昭：植樹帯による心理的減音効果（その1），日本音響学会講演論文集，523-524（1983.10）。
- 11) 田村明弘，鈴木弘之：植樹帯による心理的減音効果（その2），日本音響学会講演論文集，411-412（1984.10）。
- 12) 田村明弘，鈴木弘之，大池秀明：植樹帯による心理的減音効果（その3），日本音響学会講演論文集，457-458（1985.9～10）。
- 13) 鈴木弘之，田村明弘：植樹帯による心理的減音効果（その4），日本音響学会講演論文集，451-452（1986.10）。
- 14) 鈴木弘之，田村明弘，大塚弘之：植樹帯による心理的減音効果（その

- 5) , 日本音響学会講演論文集 , 405-406 (1987.10) .
- 15) 鈴木弘之 , 田村明弘 , 大塚弘之 : 植樹帯による心理的減音効果 (その
6) - 植樹帯設置前後における居住者と歩行者に対する面接調査の分
析 - , 日本音響学会講演論文集 , 407-408 (1987.10) .
- 16) 横浜市公害研究所 : 道路周辺の植樹帯による物理的及び心理的減音効
果に関する研究 - 中間報告 - , 公害研資料 No.49 , (1983.3) .
- 17) 道路環境研究会 , 横浜市公害研究所 : 道路周辺の植樹帯による物理的
及び心理的減音効果に関する研究 - 総合報告 - , 公害研資料 No.66 ,
(1985.3) .
- 18) 今野博著 : まちづくりと歩行空間 - 豊かな都市空間の創造をめざして
(鹿島出版会 , 東京 , 1982) .
- 19) 杉山明子著 : 現代人の統計 3 社会調査の基本 (朝倉書店 , 東京 ,
1984) .
- 20) 横浜市公害研究所 : 地域環境に関する意識調査 - 金沢 4 地区 , 1980年
11月実施 - , 横浜市公害研資料 No.25 , (1981.3) .
- 21) 横浜市公害研究所 : 地域交通環境とまちづくり , 横浜市公害研資料
No.38 , (1981) .
- 22) U・ナイサー著 , 古崎敬 , 村瀬旻訳 : 認知の構図 - 人間は現実をどの
ようにとらえるか - (サイエンス社 , 東京 , 1978) .
- 23) 吉田正昭著 : 心理統計学 (丸善 , 東京 , 1977) .
- 24) 三宅一郎 , 山本嘉一郎著 : S P S S 統計パッケージ I 基礎編 (東洋経
済新報社 , 東京 , 1977) .
- 25) 三宅一郎 , 中野嘉弘 , 水野欽次 , 山本嘉一郎著 : S P S S 統計パッケ
ージ II 応用編 (東洋経済新報社 , 東京 , 1977) .
- 26) 紙野桂人著 : 人のうごきと街のデザイン (彰国社 , 東京 , 1980) .
- 27) 建設省都市局公園緑地課監修 , みどりのまちづくり研究会編 : 都市緑
化による都市景観形成事例集 - みどりの街をつくる - (ぎょうせい , 東
京 , 1986) .
- 28) デザイン委員会 , イギリス都市計画協会編 : 新しい街路のデザイン

- (鹿島出版会，東京，1980) .
- 29) 齊藤一雄，田畑貞雄著：緑の環境デザインー庭から国立公園までー
(日本放送出版会，東京，1981) .
- 30) 土木学会編：街路の景観設計 (技報堂出版，東京，1985) .